

平成 23 年 6 月 6 日

■江田島 古鷹山ビオトープ フィールドワーク

報告者：中・四国地区委員長 竹信正敏

6 月 4 日(土曜日)、江田島市古鷹山ビオトープにおいて初夏のフィールドワークを開催しました。今年は全国的に梅雨入りが例年より早く天候も心配されましたが、この日のフィールドは初夏の陽射しが差し込み、絶好のフィールドワーク日よりなった。今回は、先月に B A 有志による維持管理作業を終えているため、ビオトープと周辺に生息する生き物の確認調査を中心に取り組んだ。また、B A の野村さんの指導で、ペットボトルで作る小魚などの水生生物捕獲の仕掛けづくり、小鳥を呼び込む巣箱づくりなどの体験学習も取り入れて催された。

午後は、ビオトープで飛び交うトンボや池に生息する水生昆虫の捕獲、また仕掛けたペットボトルの確認おこなった。捕獲した生き物については、それらの生態や生息環境について、グループごとに図鑑などによる確認作業をおこなうとともに、ひろしま自然の会会長の神垣先生の指導で捕獲したトンボの生態や同定について解説を受けた。また、神垣先生からは、「当ビオトープは計画的な維持管理が持続的におこなわれているために、希少なトンボや最近見る機会の少ないドジョウ、水生カメムシ類、トノサマガエルなど、かつては身近に見られた、“田んぼの生きもの”がここでは多く確認でききる貴重な場所となった。」という言葉をいただいた。以上のように、このたびのフィールドでの実践講座は体験も含めて非常の達成感のあるフィールドワークとなった。

このたびは、遠く宮城県から数年ぶりに B A の徳田さん、山口県から平生町職員の岩佐さん、地元の江田島市教育委員会の長原さん、八川さん、ひろしま環境再生医の会の大下さん、広岡さん、岡さんの皆さん、I WAD 環境福祉専門学校の中本先生と学生さん、中四国地区のビオトープアドバイザーの野村さん、中川さんなど総勢 28 名と過去最高の参加者数となりました。



■フィールドワークの様子



- ・オリエンテーション
参加者自己紹介の後、BAの野村さんからの説明を受ける



- ・巣箱作り
各班それぞれが小鳥の巣箱作りを体験



- ・ペットボトル捕獲器
水生生物を捕獲する仕掛けを作り、小川に設置





・生きものの捕獲
参加者それぞれが採取
ネットやタモ網をもっ
てトンボや水生生物の



・捕獲と確認
ドジョウやオオコオイ
ム、ヤゴなど多くの水生
生物を捕獲確認。





- ・生きものの生態と同定
午後、捕獲したトンボや水生生物の生態や雌雄の見分け方、同定について神垣先生よりレクチャーを受け、真剣に聞き入る参加者のみなさん。



オオキンケイギク



オオカナダモ

- ・外来種植物の侵入
周辺の登山道でオオキンケイギクが群生し、ビオトープではオオカナダモが白い可憐な花を付けて繁茂している。昨年よりウォーターマッシュルームが突然現れる。



ウォーターマッシュルーム